

日本英学史学会 中国・四国支部

ニューズレター

No.68

Historical Society of English Studies in Japan, Chugoku-Shikoku Chapter

発行年不明のカッセル国民文庫について

田村道美

平成18年度の第1回支部例会で「漱石と Cassell's National Library (2)」を発表させていただきました。冒頭で漱石文庫には16冊のカッセル国民文庫(以下CNL)があり、うち1冊はn.d.とあるが、これは表紙と扉が失われたため、CNLの書誌的知識があれば、この作品が英国版第1期に属し、1886年刊とわかると述べました。

発行年不明といえば、日本の大学の附属図書館等に所蔵されている207冊のCNLの中に発行年が不明のものが数点あります。実は、米国版CNL第1期では紙装では表紙の上部に発行年月日が小さな活字で印刷されていますが、布装ではなぜかどこにも発行年がありません。したがって、発行年のない数点は米国版布装と考えられます。この数点の表紙や扉のコピーを取り寄せて確認したところ、東大総合図書館所蔵の *Crotchet Castle* は予想通り米国版第1期の布装でした。(筆者架蔵の同作品紙装版の発行年は1887年。)同志社大図書館所蔵の *Human Nature and Other Sermons* は米国版第1期の紙装で、表紙上部に Nov. 5, 1887 とあります。しかし扉には発行年がありませんので、司書はまさか表紙の上部に発行年があるとは思わず、発行年不明としたようです。阪大総合図書館の *Criticisms on Milton* は英国版第4期のものでした。第4期では発行年の表記にローマ数字が使われています。この作品の扉には MCMV とあり、1905年刊とわかりますが、司書にはこのローマ数字の意味がわからず、刊行年不明としたのでしょう。

このように、CNLの書誌的知識に関しては第一人者(?)を自負しておりますが、竹中龍範支部長のご指摘のように、今後は英学史的観点からの考察が必要と考えております。各大学等が所蔵するCNLのいくつかには「○○文庫」の印が押されています。たとえば、京大附属図書館所蔵のものには「クラーク文庫」の印があります。このクラークは上田敏の後任として京大で教鞭をとった Edward Clarke と思われます。そこで、現在は旧蔵者を特定し、作品との関わり等を解明することで、CNLの日本における受容史の一端を明らかにできればと考えております。

(香川大学 / 日本英学史学会中国・四国支部副支部長)

平成23年度 第2回(通算65回)研究例会(津山研究例会)のご案内

本年度第2回(通算第65回)研究例会を、来る12月10日(土)、津山洋学資料館(岡山県津山市)にて開催する運びとなりました。開催にあたり、津山洋学資料館館長 下山純正先生をはじめ、山田宗八先生、能登原昭夫先生には、格別のご配慮を賜りました。心より篤くお礼申し上げます。

今回の例会では、下山純正先生のご講演、ならびに山田宗八先生、能登原昭夫先生の研究発表が予定されております。津山の英学、岡山の英学に触れるまたとない機会となりますので、会員の皆様にはぜひ津山の地にご参集いただきますよう、ご案内申し上げます。

研究例会のあとには、忘年懇親会を企画いたしております。こちらの方へも多くの皆様のご参加をお待ちしております。

プログラム

日 時： 2011年12月10日(土) 12時30分 受付開始

会 場： 津山洋学資料館 GENPO ホール (岡山県津山市西新町5 TEL 0868-23-3324)

開会行事(13:00~13:10)

支部長挨拶

竹中 龍範(香川大学)

特別講演(13:10~14:10)

司会： 竹中 龍範(香川大学)

内科医学から自然科学へ：江戸蘭学界をリードした津山藩医宇田川家三代の活躍

下 山 純 正(津山洋学資料館館長)

休憩(14:10~14:20)

研究発表(1)(14:20~15:20)

司会： 松岡 博信(安田女子大学)

津山英学の源流をさぐる：蘭学から英学へ

山 田 宗 八(山田共学道場)

研究発表(2)(15:20~16:20)

司会： 馬本 勉(県立広島大学)

おかやま英学の「流れ」と「つながり」：『おかやま英学史』出版をめざして

能 登 原 昭 夫(元山陽学園大学)

閉会行事(16:20~16:30)

副支部長挨拶

田村 道美(香川大学)

津山洋学資料館 館内見学(16:30~17:20)

忘年懇親会(18:00~20:00) 津山国際ホテル(津山市山下98-2 TEL 0868-23-1111)にて
オランダ料理(大槻玄沢が長崎出島で食したオランダ料理の再現) 会費 5,000円

交通のご案内 (津山洋学資料館 HP <http://www.tsuyama-yougaku.jp/>より)



〒708-0833
岡山県 津山市 西新町5番地
(箕作阮甫旧宅の東隣)

[TEL] 0868-23-3324

[FAX] 0868-23-9864

交通案内

バス JR 津山線津山駅より
東循環ごんごバス南廻り線で10分、
西新町バス停下車徒歩2分

中国自動車道 津山ICから車で10分
院庄ICから車で15分



(地図はGoogleマップより)



津山洋学
資料館

津山国際
ホテル

津山駅

宿泊のご案内

12月10日(土)の宿泊場所として、「津山国際ホテル」(津山市山下98-2, TEL 0868-23-1111)を確保しております。宿泊ご希望の方は、事務局までお申し込みください。一泊6,500円です。



(津山国際ホテル HP <http://www.tsuyamakokusai.co.jp/> より)

津山研究例会のご出欠について

例会・懇親会のご出欠、ならびに宿泊予約ご希望の有無をお知らせください。同封の参加申込用紙の内容につきまして、11月21日(月)までに、メール、ファックス、郵送のいずれかでご回答くださいますようお願いいたします。

事務局連絡先 メールアドレス: eigaku@tom.edisc.jp

FAX 番号: (0824) 74-1725

郵送先: 〒727-0023 広島県 庄原市七塚町 562 県立広島大学 馬本研究室内
日本英学史学会 中国・四国支部事務局

当日 11:00 より理事会を開催します(津山洋学資料館 資料閲覧室にて)。理事の皆様には、理事会のご案内をお届けいたしますので、こちらのご出欠も合わせてお知らせください。

中国・四国支部ニュース

『英学史論叢』第15号原稿募集

日本英学史学会中国・四国支部研究紀要『英学史論叢』第15号(2012年5月発行予定)の原稿を募集します。

研究論考、研究ノート、英学史随想、英学史時評、書評等、会員の皆様の積極的なご投稿をお待ちしております。

・ご投稿に際しては、以下に掲載の「執筆要領」および「標準書式」に従ってください。

・研究論考・研究ノートを投稿予定の方は、事前に「投稿申込」をお願いします。2012年1月31日までに事務局へ、メールまたはファックスにてお申し込みください。

メール: eigaku@tom.edisc.jp

ファックス: 0824-74-1725

・原稿提出の締切は、**2012年2月20日**(消印有効)です。事務局まで郵送してください。

・研究論考・研究ノートの投稿は、正副計3部をお送りください。英学史随想、書評等の原稿は1部お送りください。

『英学史論叢』執筆要領

- ・『英学史論叢』に載録するものは研究論考・研究ノートおよびその他のものとする。いずれも未発表のものに限る。
- ・研究論考・研究ノート、その他のものとも、原則として提出されたものをそのまま複写印刷するものとする。手書き、タイプライターやワープロによる印刷など、いずれも標準書式に従った完全原稿を提出するものとし、執筆者による校正は行わない。用紙は白紙を用いるものとし、原稿用紙等罫線のはいつたものは受理しないことがある。
- ・研究論考・研究ノートは日本英学史学会中国・四国支部研究例会、日本英学史学会本部月例会および年次大会、ならびに他支部研究例会における口頭発表をまとめたものとする。これによらない投稿論文も受理することがある。いずれも正副3通を提出し、編集委員会の査読を経て掲載の可否、書き直し等を決定するものとする。なお、編集委員会は必要に応じて編集委員以外の会員に査読を委嘱することができる。
- ・研究論考・研究ノートは参考文献・資料・図版等を含め、10ページ以内とする。
- ・掲載決定後の最終原稿はプリントアウトしたものと合わせ、電子媒体によるデジタルデータを提出することを原則とする。
- ・研究論考・研究ノートの掲載料は1編につき3,000円とする。ページ数を超過した場合は、1ページにつき1,000円の追加掲載料を負担するものとする。学生会員については、規定ページ数以内の場合は掲載料を免除する。
- ・その他のものについては、英学史随想、英学史時評、新刊書評・紹介等とする。これについては会員の投稿および事務局・編集部の執筆依頼によるものとする。なお、新刊書評・紹介は日本英学史学会中国・四国支部会員の著書ならびに中国・四国支部の活動に関わる著作を取り上げるものとする。英学史随想、英学史時評、新刊書評・紹介等、いずれも原則として2ページ以内とする。

『英学史論叢』標準書式

- ・用紙はB5判白紙を用い、上部に25mm、下部および左右に20mm、それぞれ余白をとる。
- ・本文は、10ポイントないし10.5ポイント文字を使用し、1行あたり38文字、1ページ38行の書式によって作成する。
- ・本文第1ページに8行分をとって論文タイトル、執筆者名を記す。論文タイトルは4倍角文字ないし18～20ポイント文字を使用し、中央に置く。執筆者名は本文と同じ大きさの文字を用いて、右に寄せて記す。なお、論文末に、右に寄せて、執筆者の所属をカッコに入れて示すこととする。
- ・本文中の見出しについては1行アキとし、番号を付して太字、あるいはゴシック体とするか、下線を施して見やすくする。
- ・注は、脚注、尾注のいずれも可とするが、本文中に右肩数字によって注のあることを明記する。
- ・参考文献、引用文献は論文末に一括して示す。
- ・英字・数字はすべて半角文字とする。

『英学史論叢』標準書式

20mm	38字	20mm	20mm	38字	20mm
芸 藩 の 英 学					
8行分 トル			と伝えられている ¹⁾ 。しかしながら、これらの人々に共		
— その起源と発展 —			通に見られる特徴は、.....		
磯 野 波 平					
1. はじめに					
現在広島県となっている安芸の国、備後の国のうち、					
早くから洋学研究の必要を認識し、.....					
.....としていた。					
このような動きに見られる芸藩の態度は、.....					
.....					
.....					
2. 芸藩の蘭学			注		
幕末期、芸藩においてもやはり、英学に先立ち蘭学が			1) 河豚田(1968: 35-38)参照。		
であった。かくして、藩校修道館に学んだこれらの人々の			2) この幕府の姿勢については福島(1952: 9)参		
.....			照。		
.....			参 考 文 献		
.....			豊田寛(1939)『日本英学史の研究』(岩波書店)		
.....			福島正剛(1952)『石垣修復』『城郭研究』6号9頁		
.....			河豚田寛夫(1968)『広島歴史』(誠意堂出版)		
.....			(英広大学教育学部)		

英学史情報ひろば

幕末以降外国語教育文献コーパス画像データベース
(外国語教育文献データベース作成委員会)

<http://www.wakayama-u.ac.jp/~erikawa/database3/>

日本学術振興会による平成22年度および平成23年度の科学研究費補助金(研究成果公開促進費)の交付を受けて作成されたデータベース。「広島」で検索すると、広島高等師範学校附属中学校英語教授研究会によって編纂された英語教科書 *New English Readers: Revised*(1~4)など、6点がヒットします。

広島英学史の周辺(34)

▼『英学史論叢』第10号の「日本英学史学会広島支部及び中国・四国支部 年表稿」によると、前回、津山で研究例会が開催されたのは、1998(平成10)年の12月。13年前の第39回の研究例会では、山田宗八先生の特別講演(「津山英学の系譜：三又学舎の昨今」)、池本康彦先生のご発表(「宇田川興斎の『英吉利文典』について」)、そして能登原昭夫先生の特別研究発表

(「平沼淑郎の『鶴峯漫談』について」)が行われています。私はこのときは参加が叶いませんでしたので、今回が初めての津山例会となります。今回のプログラムや、津山洋学資料館のパンフレット・ウェブサイト眺めしていると、「津山の洋学」への興味がどんどん膨らんでいきます。今から本当に楽しみです。▼11月に入っても「暑い」と感じる日が続く、一日のうちの寒暖の差が激しい今日この頃です。くれぐれもご自愛ください。▼では皆様、津山でお会いしましょう。(馬)

日本英学史学会 中国・四国支部ニューズレター No.68

2011年11月11日発行

発行 日本英学史学会中国・四国支部(代表 竹中龍範)

事務局 〒727-0023 広島県庄原市七塚町562

県立広島大学 馬本研究室内

電話&FAX: (0824) 74 - 1725 (直通)

e-mail: eigaku@tom.edisc.jp

ホームページ <http://tom.edisc.jp/eigaku/>

郵便振替口座 01360-9-43877 日本英学史学会中国・四国支部

Newsletter No.68